

# 第 I 章 市政戰略編



## 第Ⅰ章 市政戦略編

### 1 都市ビジョンの位置付け

市政戦略編は、第6次小牧市総合計画新基本計画において、長期的展望に立ち、市として何に機軸をおきまちづくりを進めていくのか、その基本となる考え方を示し、今後のまちづくりの指針・羅針盤とするものです。

市政戦略編では、「こども夢・チャレンジ No. 1 都市」「元気創造都市」「支え合い共生都市」の3つの「都市ビジョン」をまちづくりの機軸として掲げます。

これら3つの機軸をどのような考え方あるいは方策に基づき実現していくのかを示した「戦略」と、戦略の具体的な実行手段の核となる重点事業を示します。



図 都市ビジョンの関係

## 2 都市ビジョンと戦略

小牧市の将来都市像を実現するため、次の3つの都市ビジョンを機軸として掲げます。

### 都市ビジョン1 『こども夢・チャレンジ No.1 都市』

市内外からの小牧市に対する認識が深まり、地域のブランドイメージが向上することで、市民の愛着や誇りが醸成されている都市を目指します。

そのため、夢やチャレンジの象徴であり、次代の地域を担うこどもたちのさまざまなチャレンジを地域全体で応援する都市を目指します。

#### 戦略1 こどもの夢を育み、夢へのチャレンジをみんなで応援するプログラムの展開

小牧市の誇る「子育て支援が充実している」姿を一層高めるとともに、さらに高い地域の姿として“こどもの夢を育み、夢へのチャレンジをみんなで応援するまち、こどもを中心に全ての世代がつながっているまち”を目指すことで、全ての世代が暮らしやすい、あたたかい支え合いのまちづくりへとつなげていきます。

#### <重点事業1-1 (仮称) 地域こども子育て条例の制定>

地域でこどもの夢を育み、夢へのチャレンジを応援するまちを目指す理念を掲げるとともに、こどもを育て・育つ権利を明確化した条例を制定し、こどもをまちづくりの中心として全ての世代がつながることを明確にします。

【事業の進捗状況を測定するための指標は設定しません。】

### <重点事業1-2 夢・チャレンジ応援制度の創設>

『こども夢・チャレンジ No. 1 都市』に向けた経済的基盤として、市民、団体、企業からの寄付と行政からの積立金を財源に、こどもたちの夢を育む取組みや、夢へのチャレンジを応援する制度を創設します。

#### 【事業の進捗状況を測定するための指標】

指標	基準値	目標値 (H30 年度)
基金に積み立てられた寄付金額 ※	—	—

※目標値は、制度設計中のため「—」。制度創設後に設定します。

### <重点事業1-3 夢を育む環境の創出>

『こども夢・チャレンジ No.1 都市』に向けた地域ネットワークの基盤形成のスタートとして、企業と連携したこども向けの市内産業見学会や市民のノウハウを活かした体験講座を開催するとともに、こどもの視野を広げる国際交流プログラムを実施するなど、こどもの夢を創造し、夢へのチャレンジ精神を育む環境を創出します。

#### 【事業の進捗状況を測定するための指標】

指標	基準値	目標値 (H30 年度)
夢育み事業に参加したこどもの数	—	2,600 人

## 都市ヴィジョン2 『元氣創造都市』

『元氣創造都市』とは、市が市民の元氣づくりを応援し、逆に市民の力で創り出された無数の元氣の源がつながり合い「まちの元氣」になること、すなわち「市民の元氣」と「まちの元氣」が相互に活性化し合いながら、それぞれがさらに大きな元氣へと育っていくことをイメージした都市概念です。

市は、地域づくりに市民が活躍する環境を創出することで、市民のさらなる健康づくり・いきがづくりを応援します。

また、都市の魅力を高め、交流・賑わいを創出するとともに、地域経済を支援し、バランスの良い産業集積を今後も持続的に高めることで、さらに経済・雇用・財政の基盤が確立された活力あるまちを目指します。

市民がさまざまな場面で主体的に活躍できる環境づくりを進め、市民活動や地域自治の充実拡大を通じて、市民の創意工夫によって生み出された元気につながり合い小牧全体の元気につながる元気好循環のまち『元気創造都市』を目指します。

## 戦略2 次世代成長産業を含むバランスの良い産業集積の形成

『元気創造都市』の実現に向けた戦略として、次世代成長産業を含むバランスの良い産業集積を持続的に高め、さらに経済・雇用・財政の基盤が確立された活力あるまちを目指します。

### <重点事業2-1 企業立地の推進>

企業立地相談のワンストップ窓口化や、本市への立地のインセンティブとなる魅力ある企業立地促進制度の充実を図るとともに、新たな工業団地の開発や土地利用規制の緩和、用地情報収集など企業誘致の受け皿を整備した上で、積極的な誘致活動を行い、次世代成長産業分野を中心に新規企業を誘致します。

#### 【事業の進捗状況を測定するための指標】

指標	基準値	目標値 (H30年度)
次世代成長産業分野に属する新規企業の累計数	0件	3件

## 都市ビジョン3 『支え合い共生都市』

『支え合い共生都市』とは、同じまちで同じ時代を共に生きる市民同士がお互いに協力し合い、支え合い助け合って、安全で安心なまちをつくっていくことをイメージした都市概念です。

言うまでもなく、安全で安心なまちをつくることは市民全ての願いです。しかしながら、これを実現することは決して行政のみの力で成し得るものではありません。家庭・企業・地域など多くの市民の努力と協力があってこそ成し得るものです。

そこで、市民とともに地域単位での防災・避難訓練や防犯対策の充実などを通じて、災害に強い、犯罪の起こりにくい、安全な地域づくりを進めます。また、年々高齢化する地域にあって、歳をとっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、在宅医療・介護の体制等を充実するとともに、地域での災害時の要援護者支援体制の構築をはじめ高齢者等の見守りを強化します。

市民の力と行政の力を結び付け合わせて地域の課題を克服していく地域自治の充実を通じて、地域の支え合い助け合い活動を推進し、暮らしの安心が実現した市民の優しさがあふれる温かいまち『支え合い共生都市』を目指します。

### 戦略3 在宅医療・介護、見守り体制の構築

『支え合い共生都市』の実現に向けた戦略として、高齢者が住み慣れた地域の中で安心して介護サービスや医療サービスを切れ目なく受けることができるよう、在宅医療・介護提供体制を充実するとともに、高齢者等の見守りを強化します。

### ＜重点事業3－1 在宅医療の推進＞

医療・看護・介護等の関係機関との連携を密にして、患者本人や家族、市民への在宅医療に関する情報提供や啓発を行い、また相談窓口体制を強化して、在宅医療の利用者を増やすとともに、在宅医療・介護体制を充実します。

#### 【事業の進捗状況を測定するための指標】

指標	基準値	目標値（H30年度）
在宅で医療を受けている市民の数	286人（H25年度）	480人
在宅で看取りを受けた市民の数	—	200人

### 3 都市ビジョン2と都市ビジョン3の関係について

『元気創造都市』と『支え合い共生都市』という二つの都市ビジョンは、互いに独立したものではなく表裏一体の概念であり、相互に作用し合う相関関係となっており、同時に達成すべき都市ビジョンです。

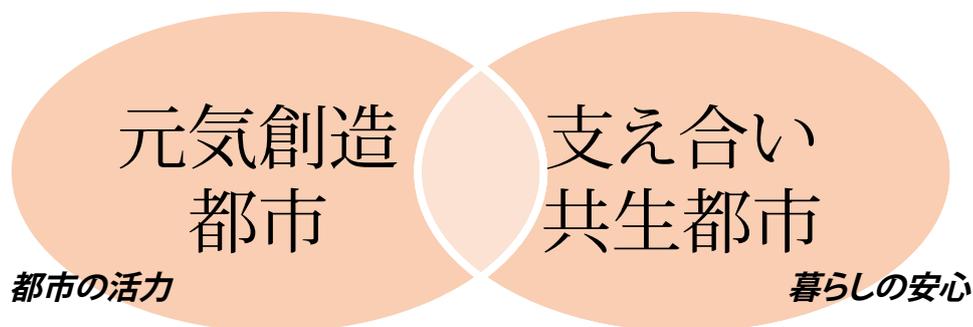
なお、両ビジョンは、都市ビジョン1『こども夢・チャレンジ No. 1都市』の実現を根底で支えます。

都市ビジョン2

『元気創造都市』＝元気なまち小牧

都市ビジョン3

『支え合い共生都市』＝優しいまち小牧



## 戦略4 “元気”と“支え合い”の地域循環による「都市の活力」と「暮らしの安心」の創造

まちづくりを進める上では、「都市の活力」と「暮らしの安心」の両方が必要です。

「都市の活力」とは、地域経済であり、市の財政力であり、地域を動かす市民のパワー等です。「都市の活力」があつてこそ、「暮らしの安心」を支える地域福祉の充実や市民のさまざまな助け合い活動が実現できます。さらに、「暮らしの安心」を支える諸活動は地域力となり、再び「都市の活力」につながっていきます。

小牧市は、「都市の活力」と「暮らしの安心」を都市運営の両輪として、双方がともに充実し、地域で上手く循環するまちを目指します。

そこで、市は市民が地域で主体的に活躍できる環境づくりを支援し、「暮らしの安心」を支える地域での支え合い助け合い活動を促進することと合わせて、さらに、それが市民の健康・いきがづくりや地域経済の活性化にも結び付き、「都市の活力」の創造につながって循環していく仕組みづくりを進めます。

### <重点事業4-1 (仮称) ありがとう地域ポイント制度の創設>

地域循環を生み出す仕組みとして、市民の支え合い活動などに対して付与したポイントで、市の公共施設・サービスを利用したり、市内限定商品券に引き換えることができる「(仮称) ありがとう地域ポイント制度」を創設します。

#### 【事業の進捗状況を測定するための指標】

指標	基準値	目標値 (H30 年度)
1年間に地域活動ポイントを受け取った人の数 ※	—	—

※目標値は制度設計中のため「—」。制度創設後に設定します。

### ＜重点事業4－2 市内限定商品券の流通拡大＞

地域経済、特に市内中小商業・サービス業の活性化を支援するため、市内限定商品券の流通インフラを構築・維持し、地域循環の経済的トリガーとして、「(仮称) ありがとう地域ポイント制度」をはじめ、公共セクションにおいてさまざまな機会を捉えて市内限定商品券を積極的に活用します。

#### 【事業の進捗状況を測定するための指標】

指標	基準値	目標値 (H30 年度)
市内でプレミアム商品券が使える店舗数	588 店	633 店

### ＜重点事業4－3 地域協議会の設立による地域活動の活性化＞

地域循環の力を、経済活力に加えて地域の連携に結び付け、地域の絆を強化し、地域活動を活性化し、支え合い助け合いの地域づくりを推進するため、小学校区を基本単位として、区長をはじめ民生児童委員や保健連絡員、子ども会や老人会などの横断的な連携が機能する新しいコミュニティ組織として、「地域協議会」を創設します。

#### 【事業の進捗状況を測定するための指標】

指標	基準値	目標値 (H30 年度)
地域協議会が組織された数	—	16 組織